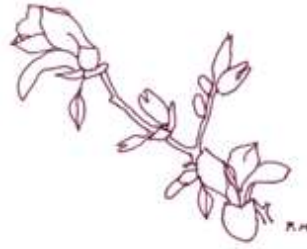


家族で子育て

27 Q&A



Q

小2の息子が、「友達に頼まれた」「宿題はない」などでウソとわかることを言っただけですが…。

自分を守ろうとしたり、寂しくて親の気を引こうとしたりするようないことはありませんでしたか？

A

これまでを振り返って

子供のウソに親がショックを受けても、頭ごなしに叱ったり、「ずるい子」「ごまかす子」などと言ったりするのは避けたいものです。人格を否定する言い方は心を傷つけるので、子供がずっと引きずることがあります。過大に受け止めないで、背景にある気持ちを汲み取ることが大切です。実害があると対処しなければいけません。ウソには何かの理由があるのです。自分を守るためだったり、親の気を引くためだったり。子供を叱り過ぎていないか、寂しく

させていないかなど、振り返ってみましょう。

子供の話をよく聞く親に

単純な話では、早く遊びに行きたくて「宿題はないよ」「もうやったよ」などと、やりたくないことを回避するためにウソを言うことがありますね。宿題をしないと遊びに行かせない、がみがみ言うなど、もし必要以上に叱っているようであれば言い方を変えてみましょう。兄弟の貯金を盗んだ子がいました。「知らない」「僕じゃないよ」という子供の目が泳いでいるのを見て、お母さんは仕事が忙しい

くて子供に寂しい思いをさせたからだと思つぎ、それから時間を作って子供の話をよく聞くようにしたそうです。

ウソには孤独や嫉妬などが隠されている場合があります。子供の気持ちを受け止めた上で、「二度ウソをつくともっとウソをつかないといけなくなるよ」と、諭せばいいでしょう。

重大なSOSが隠されている場合もあります。思春期には特有の自尊心もあって「部活は楽しい」と言っているのを隠すこともあります。小さい頃から困ったときは親に話せる関係を積み上げることが大切です。